

カナダ文化の発展と 政府の役割

アンドレ・フォルタン

連邦政府は、これまで、わが国の芸術の発展に深く関わりあってきた。これは、芸術は生活を昇揚させる（ペレルソン）ということの重要性を認識しているからである。芸術的・知的伝統がしっかりしている国は、そうした伝統が抑圧されていたり、未熟に終ってしまう国に比べて、より良い生活を国民にもたらし、かつ国の伝統、制度、さらには公共の政策の基となる価値観などを説明し、理解させることのできるコミュニケーション・ネットワークも、文明社会には欠くべからざるものといえる。

しかし、哲学と同様に、状況によっても政府の芸術への関与は起ころるものである——芸術だけとは限らないが。カナダは複雑な連邦制をとる、政治的に若い国である。そして、人口の少ない割には、多様な民族が北米大陸の半分を占める国土のあちこちに散らばって住んでおり、従って、地方意識の強い国でもある。二つの民族によって建国され、二つの公用語——世界でもいちばん多くの本や映画を生み出している三つの言語のうちの

二つ——が話されている。さらに、隣には、友好的だが強大な力と富とを備えた大國があつて、われわれはその豊かで多様な生活様式に強く魅かされている。こういう状況にあつて、コミュニケーションの手段と強い自己意識は、ともにわが国の存立を支える、いわば「生計の糧」である。ところが、これを手に入れるにはもちろん金がかかる。そこで、政府が関与することになったわけであるが、これはコミュニケーションや自己意識がカナダ人のためになる形で発展するように、つまり、カナダを外国文化の中に埋没させてしまふような、市場の原理だけで発展することのないようにするためである。

芸術的・文化的活動を後援

政府の意図は、特別な文化的イデオロギーや表現形式を育てようというのではなく、むしろ、様々な芸術的、文化的活動を助成することにある。また、政府の関心は、カナダ国民の国民意識を高め、カナダの文化的表現を発展させることにある。それでは、いつたい、連邦政府は具体的にどのような形でカナダの芸術を

奨励しているのかを見てみよう。政府の関与の仕方や度合いは、対象が何かということと状況によって異なる。ただ、政府は、その役割がいかに大きく、また影響力があつたとしても、表舞台に立つことはほとんどなかった。政府は、自らの主要な役割が芸術の発展を指導することにあるのではなく、芸術の発展を醸成する雰囲気創造することにあると考へてきたからである。

CBC（カナダ放送協会）、国立映画制作庁、国立芸術センター、国立美術館といった国営の文化機関は、主に連邦政府からの資金により、政府の独立機関として運営されている。しかし、たいていの場合、芸術に対する補助は、州や市町村といった他の行政機関、経済界、さらには一般の地域社会との分担になつている。

国立美術館や公立文書館のような、文化遺産関係の施設は早くから設けられている。一九三〇年代に、カナダ政府はカナダ放送協会と国立映画制作庁を設立したが、これは新しく開発された技術を駆使して、空間的距離だけでなく、文化的「ルーツ」や価値体系の違いによつてもお互い離ればなれになつている地域社会同士を共通の紐帯で結びつけようとする試みであつた。五〇年代の半ば、政府からの直接の資金援助によつて芸術、社会科学、人文科学の発展を促すため、英国の例にならつて、カナダ文化振興会が創立された。そして一九六〇年代には、カナダ映画振興協会が創立され、カナダでの長編映画制作のための資本投資を受けもつことになつた。

一九六八年までに、連邦政府は、州と同様、たぐさんの文化機関を設立した。

これらの機関は運営上、文化省の下でいくつかのグループに分けられていたが、相互の関係はほとんどなかった。

一九七〇年になると、この行政的調整措置に質的な変化が起こつた。文化関係の諸機関と文化省が協力して、各機関や団体の枠を越えた共通の目標を設定しようとしたからである。その目標というのは、民主化、地方分散、多文化主義、二言語主義、芸術的優秀性、国民的統一、アイデンティティなどであつた。そうした目標は、文化的発展の社会的次元および審美的次元を政府が認識していることを示し、また、人種構成の多様性と豊かさを反映するような文化的表現を助長する必要性を確認するものであつた。そして、わが国に固有なコミュニケーションの問題、すなわち、異人種からなる少数の国民同士がどうすれば途方もなく大きな距離を越えて互いに接触を保つことができるか、という問題に対する関心の高まりを示すものでもあつた。こうした関心が高まり、美術館や映画や出版の分野で多数の新しい試みが行われた。その後また、カナダ文化振興会の中に巡業部が設けられ、それまでは旅費がかさむために、カナダ人芸能団体の行けなかつたような地方への巡業を組織したり、後援したりするようになった。また、CBCに對しては、英・仏公用語によるラジオ・テレビ放送の放送エリアを、五〇〇人以上の居住地域のすべてに広げるために、追加の資金が与えられた。地方向けに作られた新雇用計画により、新しい表現手段を実験し、新しい観客を対象とする、多数の芸術集団が生まれた。

現在では、国内の芸術活動に対する連